

# 平成 30 年度 事業 報告 書

(平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日)

## I 概 況

この半世紀ほどの間に、世界の 1 人当たり穀物収穫面積は半減しており、面積当たり収穫量の増加を実現することによって増え続ける人口が支えられてきた。肥料はそのために欠くことのできない資材であり、肥料の効果と土壌肥沃度を増進するための科学の進展は重要である。一方、肥料の不適切な使用は、肥料の効果を減退させ、環境の劣化、生産物の質の悪化、資源の浪費などの悪影響を招くことも指摘されるようになっており、このような悪影響を抑制するためにも、肥料科学の進展とその成果の啓蒙普及が必要である。

我が国農業の最も基本的な課題は農業経営の持続性の確保と食糧自給率の向上にあり、国土保全や環境との調和を図りながら国内農業の生産力を飛躍的に向上させることが期待されている。しかし、平成 27 年 3 月の「食料・農業・農村基本計画」では、食料自給の理解について自給率にのみ着目するのではなく食料の潜在生産能力（食料自給力）にも目を向けた理解が必要であると、また総合食糧自給率については、供給熱量ベースと生産額ベースのいずれの自給率も重要であるとして、国民の生命と健康の維持に直結する供給熱量ベース総合食糧自給率の重要性が希薄化される結果となった。このような状況の変化はあっても、肥料科学の進展とその成果の普及による肥料利用の合理化は、我が国農業の最も基本的な課題を実現するために不可欠な要素の一つである。

当研究所は、平成 25 年 5 月 1 日に公益財団法人肥料科学研究所へ移行したが、平成 30 年度もこれらの課題に関する学術文化の国内外動向を調査研究し、その成果を講演会・刊行物・インターネット等を通じて公表普及するための事業を実施した。

## II 肥料科学と土壌肥沃度に関する学術文化の調査研究と普及啓発（公益目的事業 1）

### 1. 肥料科学及び土壌肥沃度に関する調査研究事業

#### (1) 肥料科学および土壌肥沃度に関する研究会の開催

- 1) 平成 30 年 7 月 10 日に日本農業研究会館第 1 会議室で「肥料科学および土壌肥沃度に関する研究会」第 1 回研究会を開催した。講師の加藤 直人氏（農研機構 農業環境変動研究センター 有害化学物質研究領域長）から「資源循環型農業のための家畜ふん堆肥中肥料成分の有効利用」と題して話題提供があり、質疑応答と活発な討論が行われた。参加者は 46 名であった。なお「肥料科学」第 40 号に演題の内

容を掲載した。

- 2) 平成 30 年 10 月 23 日に日本農業研究会館第 1 会議室で「肥料科学及び土壌肥沃度」第 2 回研究会を開催した。講師の藤原 徹 氏（東京大学教授 大学院農学生命科学研究科 植物栄養・肥料学研究室）から「植物の栄養吸収の制御機構の解明と植物の栄養特性改善の可能性」と題して話題提供があり、質疑応答と活発な討論が行われた。参加者は 38 名であった。

(2) 肥料科学および土壌肥沃度に関する内外の資料・情報の収集・調査

土壌・肥料・植物栄養・農業・環境などに関する学会・研究会・展示発表会等に参加し、情報・資料の収集を行った。また、海外の資料・情報についても、インターネット等を通じて収集し、動向を調査した。

(3) 環境保全型の農業、植物栽培、資源循環および土壌肥沃度増進のための資材・技術の開発に関する調査研究及び協力

環境保全型農業および地力増進のための基礎的研究の一環として、ケイ酸資材に含まれる可給態ケイ酸の評価法の開発に取り組んだ。

## 2. 肥料科学及び土壌肥沃度に関する学術・文化の普及啓発事業

(1) 機関誌「肥料科学」の刊行

調査研究の成果を公開公表するため、機関誌「肥料科学」第 40 号（論説 3 篇、A5 判、本文 89 頁、900 部印刷）を刊行し、297 部を研究機関・図書館等へ配布し、研究者等個人あて 461 部を含め総計 758 部を配布した。

「肥料科学」第 40 号に掲載の論説は以下のとおりである。

\* 資源循環型農業のための家畜ふん堆肥中肥料成分の有効利用

（加藤 直人）

\* 腐植物質の生理活性に関する最近の知見

（森山 博司・小川 孝行・清澤 正幸）

\* WTO 自由貿易体制と食料自給・食料への権利・食料主権

・・・ウルグアイ・ラウンド終了後 25 年、TPP(11)と

日・EU-EPA の発効を迎えて・・・

（有馬 泰紘）

(2) 本研究所が主催する研究会の公開

本研究所が主催する 2 回の研究会をインターネット上で案内し、一般市民の無料参加を、事前申し込みを条件として自由とした。

(3) 調査研究事業成果概要のホームページでの公表

本研究所が主催した 2 回の研究会における講演の要旨及び「肥料科学」に掲載の論説・研究報告等をホームページで公開し閲覧可能とした。

(4) 図書・文献類の収集整理と閲覧利用への便宜提供

土壌肥料・植物栄養・環境保全型農業関係図書、定期刊行物および関係学術報告書などの諸資料の収集を行うとともに、図書資料閲覧利用の便宜を図るため書架の整理と目録整備を進めた。

(5) 環境保全型の農業と植物栽培・地力増進・土壌保全等に関する研究会・講演会・研修会に対する協力

以下の協力を行った。

- ① 一般財団法人日本土壌協会その他の関係団体により結成された「土づくり推進フォーラム」に協賛団体として協力した。

### 3. その他の事業

(1) 以下の学術団体に賛助会員として協力した。

- ① 日本土壌肥料学会
- ② 日本土壌微生物学会
- ③ 一般財団法人日本土壌協会
- ④ 関東東海土壌肥料技術連絡協議会

## III 管理運営に関する会議及び監査と寄付金募集等

### 1. 会議及び監査

#### (1) 評議員会の開催状況

1) 平成30年度第1回（定時）評議員会 [平成30年5月29日（火）]

[審議事項]

第1号議案 平成29年度事業報告及び貸借対照表、正味財産増減計算書、財産目録の承認並びに監査報告に関する件

第2号議案 「公益財団法人肥料科学研究所役員及び評議員の報酬並びに費用に関する規程」の確認に関する件

[報告事項]

- ① 平成30年度の事業計画書及び収支予算書等について
- ② 平成30年度第1回理事会の審議状況について
- ③ その他

#### (2) 理事会の開催状況

1) 平成30年度第1回理事会 [平成30年5月8日（火）]

[審議事項]

第1号議案 平成29年度事業報告書及び貸借対照表、正味財産増減計算書とこれらの附属明細書及び財産目録の承認並びに監査報告に関する件

第2号議案 平成31年度以降の「肥料科学および土壌肥沃度に関する研究会」のテーマに関する件

[報告事項]

- ① 平成30年度第1回評議員会の開催予定について
- ② 寄付金受け入れの状況について
- ③ 理事長及び常務理事の職務執行状況について

2) 平成30年度第2回理事会 [平成31年3月5日(火)]

[審議事項]

第1号議案 平成31年度事業開始前提出書類(事業計画書・収支予算書・資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類等)に関する件

第2号議案 平成31年度「肥料科学および土壌肥沃度に関する研究会」実施計画に関する件

第3号議案 平成31年度定時評議員会の招集に関する件

[報告事項]

- ① 『肥料科学』40号の発行と配布について
- ② 平成30年度第1回研究会及び第2回研究会の参加状況について
- ③ 理事長及び常務理事の職務執行状況について
- ④ その他

### (3) 監査の実施状況

平成29年4月1日から平成30年3月31日までの公益財団法人事業年度における理事の職務執行状況、事業報告書等の重要文書の作成・保管等の状況、及び財務諸表等について平成30年4月23日に監事による監査が行われ、それら全てが適正かつ公正であることが確認された。

## 2. 寄付金募集

ホームページ上で寄付金を募ったほか、機関誌「肥料科学」第40号の配布に併せて寄付金募集文書「ご寄付のお願い」を配布した。平成30年度中に寄せられた寄付金は、総件数66件、総額750,000円であった。

### 3. その他

- (1) 公益財団法人肥料科学研究所個人情報取扱規程に即してコンピューター収録データの安全管理、個人情報記載文書の金庫内保管が実行された。また、特定個人情報は、官公署への提出書類のみに記載され、提出後は当法人内に一切保持しない状態を維持した。
- (2) 公益財団法人肥料科学研究所消防計画に即して安全の確保と防火に努めた。